

# 茅ヶ崎のアメリカネナシカズラ

小原 敬

On naturalized dodder (*Cuscuta campestris* YUNCKER) in Chigasaki, Kanagawa Prefectur.

Takashi OBARA

先年、新聞紙上に正体不明のネナシカズラが湘南地方の海岸に夥しく発生し、ハマヒルガオに大害をあたえていると報ぜられていた。

この植物を大谷茂、村上司郎両先生はハマネナシカズラ (*Cuscuta chinensis* LAMARCK) として報告されたが、その後、浅井康宏先生は北アメリカ産の *Cuscuta pnetagona* ENGELMANN と同定され、その和名をアメリカネナシカズラとされた。またこの種は *C. pentagona* var. *pentagona* と *C. pentagona* var. *calycina* ENGELMANN (*C. campestris* YUNCKER) に細分されることもあるが、これら両変種間には中間型も見出されるので、一応同一種として取扱っておくと記述されている。

最近長田武正先生は甲府市内のものを検討され、*C. campestris* YUNCKER の記載と良く一致している述べられている。

また、関西地方のアメリカネナシカズラでは萼部が角張っていないという報告もある。

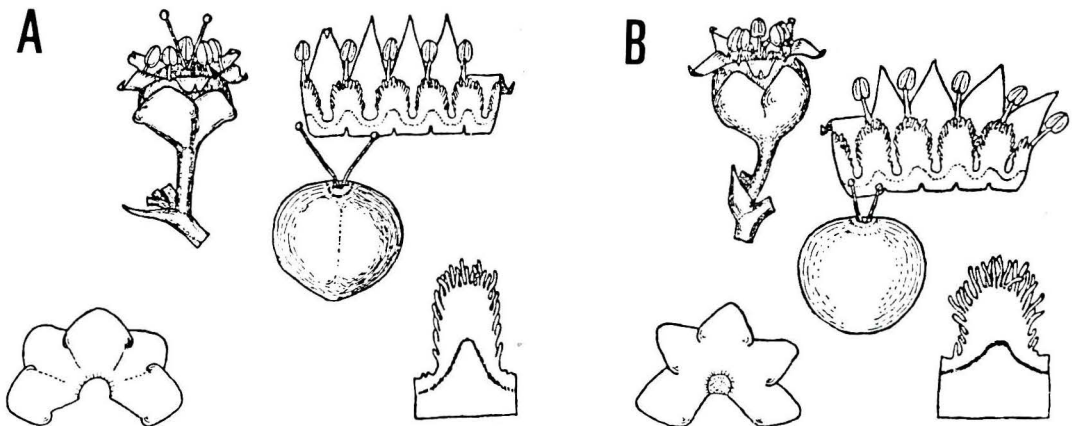
一昨年 (1979)、高橋秀男先生はこの植物に関する詳細な報告を雑誌「遺伝」に発表された。

このアメリカネナシカズラの精細な記載と鮮明な図解が L. ABRAMS (1951), D. S. CORRELL 夫妻 (1975), W. C. MUENSCHER (1980) の著書に掲載されている。

現在茅ヶ崎の海岸に帰化しているネナシカズラは上記の *C. pentagona* 型かあるいは *C. campestris* (*C. pentagona* var. *calycina*) 型かをこれらの資料を参考に検討してみた。

一般に植物の学名はその種の最も顕著な形態的特徴を示している場合が多い。*C. pentagona* ENGELM. のエピソード *pentagona* (5稜の、5角の) は、この種の萼片が基部で巾広く重なり合い、萼が明らかに五角形を呈することを示している。これはアメリカ国防総省の建物に五角形をしているので *Pentagon* と通称されていることと共通している。

茅ヶ崎に帰化しているアメリカネナシカズラでは萼片の湾欠部は深く重なり合うことはなく、従って萼は五角形を呈しない。また萼片は広卵形ではなく、卵形ないし広楕円状卵形で、長さと同じ巾が等しいこと、萼が花筒に密着すること、花に半透明の腺細胞が認められないこと、小花柄が花より短いこと、花冠片が披針



A, *Cuscuta pentagona* ENGELMANN ; B. *Cuscuta campestris* YUNCKER (D. S. CORRELL, H. B. CORRELLによる)

植物名	<i>C. pentagona</i>	<i>C. campestris</i>	植物名	<i>C. pentagona</i>	<i>C. campestris</i>
花	基部から花冠の湾欠部までの長さ1—1.5cm, 花が生じて突出した果実は直ちに大きく頭部を出す。普通半透明の腺細胞あり。	基部から花冠の湾欠部までの長さは約2.5cm 果実は結実時に大きく頭部を出す。平滑または半透明の腺細胞を散生する。	花冠片	披針形。筒部と同長かわずかに長い。	三角形ないしやや披針形。ほぼ筒部と同長。しばしば顆粒状の突起あり。
			果実	たいてい僅かに圧偏された球形か幾分卵形, しばしば幅より長い。	圧偏された球形。
花序	小花柄は花とほぼ同長か通常多少短かい。疎な集散花序に集塊状に着生する。	小花柄は大抵花より短かい。密集している集散花序に塊まつて着生する。	北アメリカの分布地	アメリカ東部, オクラホマ, テキサス, コロラド, モンタナ, カリフォルニア	テキサス, オクラホマ, アリゾナ, この属の自然分布域を越えて分布し, 各地に帰化している。
萼	花冠筒部を緩く囲む。	花冠筒部に密着する。	寄主	キツネノマゴ属, フヨウ属, アキノキリンソウ属, ブタクサ属, ヨモギ属その他。	キツネノマゴ属, オナモミ属, タコノアシ属, ミズユキノシタ属, シヤジクソウ属の諸種を含むほとんど総ての草本植物。
萼片	広卵形, 普通長さと同幅は同じか巾広い。しばしば不等形。湾欠部で深く重なり合い, 明らかに5角形を呈する。	卵形ないし広楕円状卵形。普通長さと同幅は等しい。基部では重なるが湾欠部では著しく角ばらない。			

形ではなく3角形であること, 花下の苞片が幅広いことなどにより *C. campestris* YUNCKER によく似ている。

高橋先生が *C. pentagona* ENGELM. として図示されたものは, CORRELL が図解した *C. campestris* YUNCKER と良く合致している。

なお, P. V. KAMELIN (1980) は本種がザバイカル地方に帰化していることを報じている。

ソ連にはアメリカの植物が相当帰化しているようで例えば, 一昨年(1979)大谷茂先生からナホトカより入手されたイネ科植物の同定の御依頼を受けたが, それはホソノゲムギ (*Hordeum jubatum* L.) であった。この植物は西シベリヤ, ソ連欧州部, 中部アジアのものは明らかに帰化品であるが, ソ連領極東地方のものも分布が海岸に近く片寄り, 路傍, ごみ捨て場で発見されていることから北米から来た帰化植物と考えられる。それで将来アメリカの植物がロシア経由でわが国に渡来することも起り得ると予想される。なお本種は吉川代之助氏により船橋市で採集されている。

別表にネナシカズラ属の両種の区別点を表にして示しておく。

#### 参 考 文 献

Abrams, L. : 1951 Illustrated Flora of the Pacific States. vol. III. Stanford University Press, Stanford.

Correll, D. S. et Correll, H. B. 1972 Aquatic and Wetland Plants of Southwestern United States. vol. II. Stanford University Press, Stanford.

Hitchcock, C. L. et al. 1977 Vascular Plants of the Pacific, Northwest. part 4. University of Washington Press. Seattle, London.

Muenschler, W. C. 1980 Weeds. second edition, Comstock Publishing Associates. A division of Cornell University Press, Ithaca and London.

他の文献については高橋秀男, 1979, アメリカネナシカズラをめぐる, 遺伝33: 39—44を参照。

(平和学園 茅ヶ崎市)